



港区立南山幼稚園

Minato City, Nanzan Kindergarten

10月園だより

令和2年9月30日
September, 30, 2020

園長 河合 晴美
Principal
Harumi Kawai



伝わることの大きさ

園長 河合 晴美

暑さも和らぎ、秋風とともに子どもたちが戸外で活発に遊んでいます。

3学年の子どもたちが通う南山幼稚園では、園庭は子どもたち同士の関わりの場として大きな意味を持ちます。

すり鉢とすりこぎを使って草花の色水づくりを始めようとした5歳児の学級では、その用具を見て「分かった」とあまり迷いもせず子どもたちが試していきました。その姿に対し担任が声を掛けると「だって前のさくらさんがやっていたから分かるよ・・・」という声が返ってきました。幼稚園では、それぞれが遊んでいても、子どもたち同士が互いの遊びや動きをよく見たり、聞いたりしているのです。

牛乳パックで作った船を動かそうとする5歳児の遊びの場で、5歳児に紛れ真剣なまなざしで見守る4歳児、場を作り、魚を焼く4歳児の遊びに引き付けられるように近寄る3歳児・・・子どもたちが生み出す幼稚園の遊びは、魅力がいっぱいです。それらを幼児自身がよく見ること、知ることによって興味、関心を抱き、やってみたいという意欲が生まれます。そして、今度は自分自身で体験し、自分のものとして獲得していくことが幼稚園での学びです。

このような姿の中で、特に年齢を超えた子どもたち同士で伝わることは、幼稚園にとって大きな宝となります。子どもたちは、自分の中に取り込んだことを熟成し、その後再現していく力、自分自身で切り開いていく力があります。そして、それらを実際に動きとして表したとき、私たちは、子どもたちの中にある潜在的な可能性の大きさ、すばらしさを改めて知ります。

さて、今日は子どもたちが「もの」や「人」「出来事」とどのような出会いをするでしょうか。幼稚園の毎日は、豊かな時間の流れの中で、子どもたちの学びや成長を大切に支えていきます。



<大きな海に浮かぶさくら組の船を見ている4歳児>



<電車ごっこの途中で気になる遊びを見つけた3歳児>

